

ともしび

第037号
発行
両毛病院
編集 広報委員会

院長通信

梅の香りの知らせが届く季節になってまいりました。

昨年12月の総選挙では政権政党が民主党から自民党に変わりました。民主党があれほど信用失墜していたとはおどろきでした。

日本医師会は3年前の政権交代に伴って応援政党を自民党から民主党に鞍替えしました。そのため今回の自民党圧勝の結果を見てまた鞍替えをしていますが、なにか一貫性のなさを表にさらしてしまっているようです。それに比べ日本精神科病院政治連盟は一貫して自民党を応援してきました。民主党のなかでも精神科医療に理解のある議員さんとは意見交換をしてきましたが、政党として応援したのは自民党だけでした。定期的に精神科医療に関する検討会を開き、日本精神科病院協会としての意見を議員さんたちによく説明してきました。医療経済が厳しい中で医療、特に幅の広い精神科医療は社会保障の要素が大きいことを議員さんたちの多くが理解してくれています。自民党政権には結構期待できるのではないかと

思っています。

近々日精協の政治連盟会議が開かれます。その集まりに先立って、今回総理大臣になった安倍晋三氏を囲む会が開かれます。安倍氏の強気の経済政策には副作用があるという反論をいろいろな評論家が言っているようですが、副作用というのは実際使ってからでないと出てこないものです。医療現場でも副作用が心配だと言って効果のある薬を使わないのではまったくの本末転倒というものです。副作用には細心の注意が必要ですが、本来の効果に期待して使い始めてみる必要があるのではないのでしょうか。ドイツの閣僚の1人が安倍首相の日銀に対する圧力に批判的な意見を述べていましたが、これこそ内政干渉でしょう。日本にとって必要な対策であるということです。EUで同じような対策ができないことの羨望なのでしょいか。

日本の紙幣・貨幣製造技術は世界一です。他国の紙幣も日本で製造しています。この技術に対する信頼感と「円」に対する信頼があれば、日本経済の未来は明るいといえます。

第326号 院長 秋山 一郎

『両毛病院入職35年間を振り返って』

昨年12月21日(金)開院記念式典に於いて、永年勤続35年の表彰を受けました。今振り返ると、長いようで短い35年間であったように思います。

昭和52年の入職当時の病院はレクリエーションが盛んに行われていました。病院近くの秋山川河川敷にて約170名の患者さんと散歩やソフトボールそして昼食は野外炊飯をして一日を過ごしたそんな時代も思い出の一つです。

35年間勤務をしてきたなかで最も充実していたのが、デイケアでの17年間の活動です。精神科での治療の一環として、患者さんが活動できる場所、デイケアが必要とのことから、平成5年8月突然の辞令で、私は病棟業務から軽作業室に移りデイケア立ち上げの一人となりました。

年が明けた平成6年6月に小規模デイケアの開設認可があり、メンバーさん6人と専従スタッフ2名、非常勤医師1名で県内3番目のデイケアが不安と緊張のなかスタートしました。

デイケアとしての活動が軌道に乗り始めたと思われた数ヶ月後、異様な雰囲気を経験しました。メンバーさんの表情に笑顔がなくなり、私を避けて距離を取っている事に気づきました。スタッフの話では私のやり方がプログラムを優先した考えで、メンバーさんの調子や体調を気づかう事が少なくメンバーさんから「無理におしつける」

「私の事をわかってくれない」などの声があったと聞かされました。精一杯やっていた裏腹で、指導的振る舞いや指示的であった自分に気づかされたのです。私自身があせらないように、考え方をえようと思付きました。その後は、メンバーさんと一緒に考え一緒に楽しむ事でメンバーさんからも親しみの言葉をかけてもらえるようになり、やっと自分がデイケアの一員になれたと、その時思いました。

軌道に乗ったデイケアはメンバーさんも増えて、平成8年8月大規模デイケアの認可を取得しました。

特別プログラムでは、葛生町で沢山のメンバーさんと勤務後応援に集まってくれた職員とで盛り上がったキャンプファイア。日立市の海辺のパーベキョー。森林浴で行った先での日光戦場ヶ原で天皇陛下、皇后陛下から優しいお言葉を頂くといいサプライズもありました。

デイケアは回復期の次のステップにつながる為の場所だと思えます。色々なプログラムがありメンバーさんが自ら選択し、まずは楽しめる事、今日デイケアに来て良かったと思える場所。デイケアを卒業しても疲れたら、いつでもエネルギーを充電して戻れる雰囲気保障された居場所であってほしい。例えるなら大地に沢山の根を張った巨木のように、力強く良いものを吸い上げ沢山の社会という枝をつけ、メンバーさんが自分にあった社会の枝に進めるよつなところであってほしいと思っています。

看護師 新井 昭

あいにくの雨

10月28日、第30回両毛病院文化祭が開催されました。

数日前より天候が心配されており、予測はされていましたが、当日の朝に雨が激しく降りだし、会場が院庭から室内に変更となりました。

今回は第30回であることから、ステージでの催しはボランティアの方々の感謝授与式から始まり、雨の為限られてしまいました。室内で出演できる方々のプログラムで進行がされました。

「あいにくの雨」「雨だね」・・・文化祭企画委員長として天気が良いなか、外で楽しめることができずにとっても悔しく思いましたが、雨にも関わらずたくさんの方々が来場し、楽しんでいただいていた無事に終わることができました。

当日の急なプログラムの変更にも関わらず、対応していただいたボランティアの皆様、職員のご協力に感謝しております。ありがとうございました。

看護師



まさかの・・・

10月10日、日精看ソフトボール大会が宇都宮の駒生球場にて行われました。

ここ数年、優勝、準優勝、準優勝と好成績を残してきた為、今回もシードとして二回戦からの出場でした。迎えた初戦では、緊張からか一点・また一点・・・と失点。毎年波に乗るのに時間がかかるチームである為、選手には勢いのある声援が続いていました。

しかし、飛んでいくのは相手チームの打球のみ。選手に飛んでいたはずの櫛は、いつしかなくなり実力も発揮できぬまま気が付くと、今回の大会の幕が下っていました(泣)。

えっ?結果?・・・そんな0対23だなんてとても言えません(笑)。まさかの大敗(悲)。しかし、今回の悔しさをバネに次回の大会では再び好成績を残す事を願うばかりです。

G F r I t !!

看護師



カルフルとちぎに参加して

栃木県障害者文化祭「カルフルとちぎ 2012こころのつどい」が11月2日・3日、宇都宮市のとちぎ福祉プラザで盛大に開催されました。

患者さんが毎年楽しみにしているイベントのひとつです。当日は天候に恵まれ、気持ちのいい青空が広がっていました。会場に着くと、患者さんがカレンダーを欲しいからスタンプラリーがやりたいとの事。早速場内を巡りながらスタンプを一つずつ押していきます。最後にカレンダーを手にした時には「もらえたよ!」と笑顔で喜んでいました。

昼食は各自好きな物を購入して、皆と一緒に食べます。食べたいものが沢山ありすぎて、どれにしようかと悩んでいる姿が微笑ましく感じられました。

会場では製作品販売、模擬店、芸能発表、カラオケ大会、体験コーナーや福祉車両の展示などもあり内容が充実しています。『カルフルとちぎ』とは障がい者と健常者、そして障がい者相互間の交流の活発化の願いを込めてフランス語の『交差点』を意味するCarrefour(カルフル)からとったそうです。

この交流を通して一般の方達の間にも障がい者の福祉についてもっと関心と理解が深まることを願います。

アシスタントナース

念願のゴルフ大会優勝

今回の優勝者は実力者のS根H和氏と誰も疑われないなかで、12月1日に第8回院長杯が行われました。

極寒の中でのラウンドとなり僕は震えながらのゴルフとなったのに対して同じパーティーのO串K寿氏はダウンジャケットの上から湯気を立たせる程の汗。その体感温度の差!?代謝の差!?に笑かしてもらいながらプレーすることが出来ました。途中、ヒョウが降るといふ悪天候。何度も自分の心がへし折れそうでしたがパーティーの方達にも助けられ最終18ホールまで来られました。

スコアを見て、『まさかの優勝!』』と思つたとたん寒さを忘れ、まるで別人のごとくルンルンな足どりになっていた僕でした。そしてハンデにも恵まれ憧れの院長杯の優勝カップを手にすることが出来、商品の高級ローストビーフを美味しく頂きました。

関N秀K氏は不調で力を発揮出来ず・・・来年に皆、期待してますよ。

大K晃J氏来年も参加して一緒に楽しみましょう

看護師



みんなが主役

昨年12月21日(金)両毛病院年末恒例のクリスマス演奏芸会が、作業療法室にて沢山の患者さんと職員が集まったなかで行われました。

今回私は、司会を務めましたので幸運にも全てのプログラムを演芸を間近で見ることが出来ました。

オープニングは両毛コーラスのハンドベル演奏で始まり、すてきなクリスマスソングが会場に響きました。一病棟はマジックショーと踊り、二病棟の台所用品を使った演奏と力強いよさこい、三病棟の水戸黄門のすばらしい演技、医局の手品、管理棟の劇『みにくいあひるの子』など、勤務の合間に練習をしたとは思えないほど、患者さんとの息の合った演技はとてすばらしく、芸達者な方達が多いと、あらためて感じました。

最後は当院伝統の出し物『白浪五人男』の迫力ある演技に、会場から大きな拍手が送られていました。

皆さんの心に残る、すてきなクリスマスの一瞬
 になったので
 はないでしょ
 うか。

作業療法アシスタント



自然の中で楽しいひと

10月20日、家族会の皆様と野の花自然園・花之江の郷(栃木市)へ行ってきました。今回は半日のドライブも兼ねて、昼食会を行いながら患者さんご家族同士の親睦を深めて頂くという計画をしました。

お天気も良く絶好のドライブ日となり、マイクロバスの中でも隣同士になられた方と会話も弾み、現地でも合流された方々と共に、自然を感じられる場所でおいしい和食膳を頂きました。

食後は園内の秋の花々を愛でながら散策される方、又はお茶をしながら時間が経つのも忘れて話し込まれる方々と、思い思いにひとときを過ごされていました。ご家族の皆様がリラックスして自由に交流出来るよう心がけて付き添わせて頂きました。

最後に秋のコスモスをバックに記念写真を撮り、「とても楽しかった。又こういう機会を作ってほしい」という声を頂きました。一緒に参加させて頂き癒された一日でした。

看護師



院内完全禁煙について

駅のホームなど公共施設が終日禁煙になるなど、全国的に禁煙の推進運動が勧められています。

当院の禁煙サポーター委員会も、この様なご時世を受けて昨年の7月に職員及び入院とデイケアの患者さんの協力を頂いて、禁煙についてのアンケート調査を行いました。

アンケートの結果は、外来待合室や各病棟に掲示をしました。皆さん目を通して頂けましたか。また副流煙によるタバコを吸わない人への影響など沢山の意見も頂きました。

今後の方針として、タバコに含まれるニコチンと薬剤との相互作用の問題、そしてタバコを吸う方から院長の方針に促したいとの声も多く頂いたこともあり、2月1日から病院敷地内全面禁煙が決まりました。

全面禁煙に向けて委員会では『喫煙と健康』と題した研修会を開催し、喫煙に代わる入院生活の過ごし方、希望者には禁煙補助剤の購入なども検討しています。

今後患者さんの健康と私達の健康も踏まえて、良い環境の下で患者さんに関わっていきたくと思っています。当面は大変かと思いますが職員がお手本を示すことで、患者さんにもご理解頂けるのではないでしょ

看護師

病院からのお知らせ

【外来診療の土曜日開催について】

今年1月から土曜日の外来診療を毎週行っております。予約以外の当日の受付、初診の診療受付もしておりますので、詳しくは電話にてお問い合わせ下さい。担当医師は、当番制となっております。

受付時間、診療時間は平日と変わりありません。

【禁煙について】

2月1日から当院敷地内(駐車場も含む)全面禁煙となりましたのでご協力お願いします。



【外来診療のご案内】

診療科目

精神科・内科

受付時間

初診 午前 8:45 ~ 11:30

再診 午前 8:45 ~ 12:00

診療時間

午前 9:00 ~ 12:30

(専門外来

毎週水曜日 午後 2:00 ~)

- * 外来診療は、月曜日 ~ 土曜日です。
- * 外来診療は予約制になっておりますので、初診の方も事前にご予約をお願い致します。また、当日受付も遠慮なくご相談ください。その他、ご不明な点がございましたらお問い合わせ下さい。

【外来担当医師表】

	初診・当日受付	予約再診	予約再診
月	秋山 伸恵 (初診)	高山 晃司	
	秋山 佳子 (当日受付)		
火	佐々木 美和子	秋山 佳子	山本 卓二
水	秋山 恵一	秋山 伸恵	中村 晃士 1
木	山本 卓二	秋山 伸恵	大越 麻加
金	高山 晃司	佐々木 美和子	
土	毎週当番医制		

1 児童・思春期・発達障害専門外来

診察医 慈恵医大講師 中村晃士

毎週水曜日の午後、18歳未満で下記のようなお子さんのご相談、診療を行っておりますので、電話にてご予約をお願いします。

- ・情緒不安定
- ・不登校
- ・幼稚園、保育園、小学校などで落ち着かず、問題行動が見受けられる

【交通のご案内】

* 自動車でお越しの方

佐野田沼IC (北関東自動車道) より7分

佐野藤岡IC (東北自動車道) より15分

* 電車でお越しの方

佐野駅 (JR・東武佐野線) よりタクシーで5分

堀米駅 (東武佐野線) より徒歩7分

【編集後記】

「ともしび」では患者さん方の院内での活動の様子や病院の年中行事の様態など、参加された患者さんの声や職員の声を記事にしていきたいと思っています。また、広報誌に掲載しきれない患者さん方の活動の様子や当院の情報につきまして、ホームページで詳しくご紹介しております。ぜひご覧下さい。

医療法人 秋山会

R 両毛病院

〒327-0843 栃木県佐野市堀米町1648

TEL 0283-22-6150 FAX 0283-22-6159

ホームページアドレス <http://www.ryoumoubyouin.jp/>

<広報委員会> 青木 雄二・石橋 和俊

